

連日猛暑日、社員の身より体裁重視！ その2

8月の所内誌「轍」では勝見副所長、栗本総務科長のコメント「空調温度管理」についてふれています。

その前おきとして、「なんで今、節電をしているのか？関西電力の発電量が足りない・・・それは原子力発電所が休止しているからです。」と断言しています。

私たちは、交差点No.338で今夏、関西電力管内最大電力需要（ピーク電力）時に「原発ゼロ」でも24%も供給力が有り余っているという事実を明らかにしましたが、副所長は事実も知らず、ただただ関西電力の回し者のような発言をしています。政府の役人気取りかも！？（ちなみに勝見副所長の出身は原発が日本一混在する敦賀市です。）

また、「日本人が絆を信じて復興に努力してきている～」とコメントがありますが、勝見副所長自ら復興に対して具体的に何をしたのか聞かせてもらいたいものです！

私たちの分会にも震災で被災された組合員や復興に向けてのボランティア活動に参加された組合員がいます。簡単に「言葉」だけで流してもらいたくはありません。

副所長、総務科長のタッグでも 職場の空調は改善しませんネン！

さらに所内誌『轍』は勝見副所長のコメントで空調管理について、設定温度のスイッチを勝手に下げた人に対しての苦言を載せています。その後「～このロッカー話しの中でも、規律高い人たちの集団が居ることも確か～その一番東側のスイッチは殆ど触られたことがあります。私が訂正したことが無いということ～このエリアの多くは古参の乗務員が入っている～ここのスイッチは職場にとって頼れる乗務員のプライドのスイッチ～」と展開しています。まさに自分の主観と偏見により実際見てもいないのに古参の乗務員はスイッチを触っていないと断定しています。

言い換えれば、西側のスイッチに近いロッカーの並びにスイッチを触った者がいると言っているのと同然で、非常に不適切で許し難い発言です！

乗務員の切実な要望、不満を聞き入れ守ってくれる上司なら仕事にメリハリが出て、仕事効率もはかどるでしょう！！

猛暑日も、涼しい快適な職場環境で心身共にリフレッシュ！！